

希望をかなえるヘルプカード

利用促進・普及のための「資材セット」のご案内

- ◆認知症施策推進大綱（以下、大綱とする。）では、認知症の人の視点に立って、本人発信支援、認知症バリアフリー、社会参加支援等を推進し、希望を持って日常生活を過ごせる共生社会の実現が目指されています。
 - ◆それらを具体的・一体的に進めていくための道具として、令和3年度、東京センターではヘルプカードに焦点を当て、全国調査および試行調査を実施し、その結果、認知症の本人の「希望をかなえるヘルプカード」の利用可能性と有効性が高いこと、地域での一人の成功体験が次に続く人を生み出し普及のための大きな推進力になること等が明らかになりました。
 - ◆これらの結果をもとに、各自治体等が、カードの利用促進・普及をスムーズに進めていくための「資材セット」を作成いたしました。
 - ◆一人でも多くの人が、「希望をかなえるヘルプカード」を使って、地域の中で望む暮らしを続けながら、元気に暮らしていけるように、以下の「資材セット」を各自治体や関係者の方々に広く周知いただき、それぞれの地域での利用促進・普及にどうぞお役だて下さい。
- ※以下、「希望をかなえるヘルプカード」を、「カード」と略します。

資材名・表紙等	内 容・用 途	備 考
① 希望をかなえるヘルプカード ～もって安心、使って便利～ 	本人（疑いを含む）等へのカードの紹介・導入用のガイド（リーフレット） * カードのねらいやメリット、実際に使っている人がよく記入している内容のひな型、持ち方などをイラスト入りでわかりやすく紹介。 * 相談場面や集まり等で本人に気軽に手渡し、話し合い、カードへの関心を喚起するためにご活用下さい。 * カード利用を焦らずに、まずは本人と一緒にこのリーフレットを見ながら、日々の暮らしの実際や望んでいること、不安・不自由等を具体的に話しあってみるためにもご活用下さい。	・リーフレット ・A4版 裏表 ・三つ折りにして配布 ・カラー ・記入用のひな型入り
② 希望をかなえるヘルプカード スタートガイド2021 	自治体や支援者用の利用促進・普及をスタートしていくための手引き * 専門職等が本人視点にたって自分ごととして考え、本人とともに利用促進や普及に取り組んでいく過程やポイントについてわかりやすく案内。 * 実際に、本人が活用している事例やその支援過程の事例のレポート（事例）を紹介。 * 認知症施策担当者、認知症地域支援推進員、地域包括支援センター、（主任）介護支援専門員、認知症疾患医療センターや地域の医療機関、地域支援の関係者、企業等に幅広くご紹介下さい。	・冊子 ・A4版 24ページ ・カラー ・記入用のひな型入り ・取組レポート（事例）も掲載 ・資材の入手方法をQRコード入りで紹介
③希望をかなえるヘルプカード スタートガイド2021 付録 DVD 前半：一足先にカードを使っている本人のメッセージ 後半：各地で実際に利用している本人の姿、声。企業で活用し始めた例も。 	カードの広報・普及用の動画 * カードを実際に使っている人たちのリアルな姿や声をもとに作成。 * 人口規模の大小や認知症の段階、年代に関わらず、本人がカードを実際に使える可能性やメリット、本人が使うことによる地元のお店や企業にとってのメリット等を、コンパクトに紹介。 * カードを知らない、無理と思っている人たちにも、短時間でカードの必要性や使える可能性に触れ、関心を高めてもらえます。 * 本人、住民、地元のお店や企業、専門職、行政職員等に、気軽に見ていただいたり、様々な人たちにこの動画を、どうぞご紹介下さい。	・動画 5分34秒 ・DVD ・YouTubeでも配信 ※下記、DCネット参照
③カードのひな型(記入用)  ◇カード型（表裏2面） ◇見開き型（全4面） ①ヘルプカードの名称なし ④ヘルプカードの名称あり ②ヘルプカードの名称なし ※連絡先等記入欄あり * 「私は認知症」表記あり ③ヘルプカードの名称あり 本人が望む場合に、自治体名等、公的な名称やシンボルマーク、連絡先等を入れていただけるスペースがあります。	本人が実際にカードを作ってみるためのひな型（記入用） * 本人が自分の暮らしの中での望みと周囲に伝えたいこと（協力をお願いしたいこと等）を具体的に書いてみるためのカードのひな型です。 * 試行した本人たちからの以下のような意見をもとに、本人が関心を持ち、前向きに使ってみたい気持ちになるように、デザインや表記を工夫しました。 <div>・ヘルプカードというカタカナ語はわかりにくい。人に出せない。 ・配られて持たされても、自分に役立つと思えないと持たない。 ・出すと、わかってほしいことが一目で伝えられるカードがいい。 ・支援が必要、と大まかに書いてあると、必要以上に「支援してあげましょう」と思われそうでつらい。持つのをためらってしまう。 ・ちょっとだけ協力してもらって、自分でできるだけやりたい。使うならそうしたことを自分が具体的に書けるカードがいい。 ・ヘルプでなくホープを。そうしたイメージが地域に広がるようなカードだとうれしい。それなら持ちたい。使いやすい。</div> * カードのデザインや表記は、本人自身が選ぶことが何よりも肝心。本人が楽しく選んだり、自分なりのカードを作るためのひな型を用意。 * 各地域で既に普及を図っているカード等がある場合、そのデザインや表記を活用したり、応用いただくことも、もちろん可能。 * 今後、自地域でどういうカードがあったら、本人が使いやすく、普及もしやすいか、本人を交えて各自治体等が検討していくサンプルとしても、どうぞご活用下さい。	・カードサイズ ・カラー ・記入用のひな型として、4種類 ・本人が記入することの多い記入例は、 ①リーフレット、 ②スタートガイドを参照。
⑤ ちらし  地域での連絡先等を入れていただけるスペースがあります。	広報・周知のためのちらし：配布、掲示用 * カードのねらい、利用することでのメリットを、認知症の本人（疑いを含む。）と、住民・働く人たち、双方に幅広く知らせていくためのちらしです。 * ちらしの最下段に、地域での連絡先を記入できるスペースを設けてあります。自治体名あるいは、カードの利用促進に取り組んでいく組織名等をご記入いただき、ちらしを見て関心を持った本人、支援者、企業等が、一人からでも実際の利用につながっていくために、お役だて下さい。	・A4版 ・カラー ・片面



ダウンロード & さらに詳しくはこちら

DCネット 希望をかなえるヘルプカード



お問い合わせは下記へどうぞ。関連情報もどうぞお寄せ下さい。



認知症介護研究・研修東京センター
r.tokyo@dcnet.gr.jp 03-3334-1150

QRコードでも、ご覧いただけます。